～自尊感情（豊かな感性と表現等）～

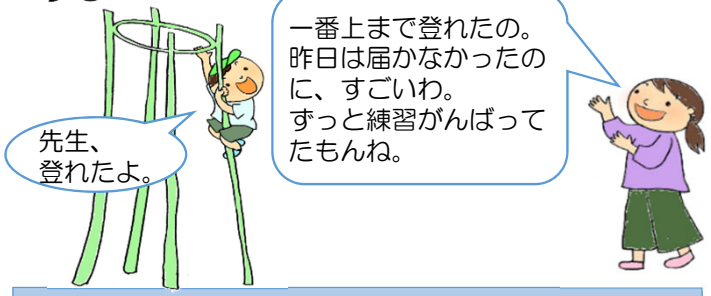
「自尊感情」とは、「自分が好き」「自分を大切に思える気持ち」です。自尊感情が醸成されていることで、自分をきちんと評価し受け入れることができたり、自分の意見を言い、自己決定ができたりする姿につながります。

1「自尊感情」を育む援助

（1）子ども自らが考え選択したことを認め、試したり行動したりする姿を支える

（2）子どもの発達段階を見極め、次の段階に進めそうなときは、少しがんばれば乗り越えられそうな課題を提示する

（3）子どもが自分の力でがんばったことと、その結果成し遂げたことを認識できるようにする



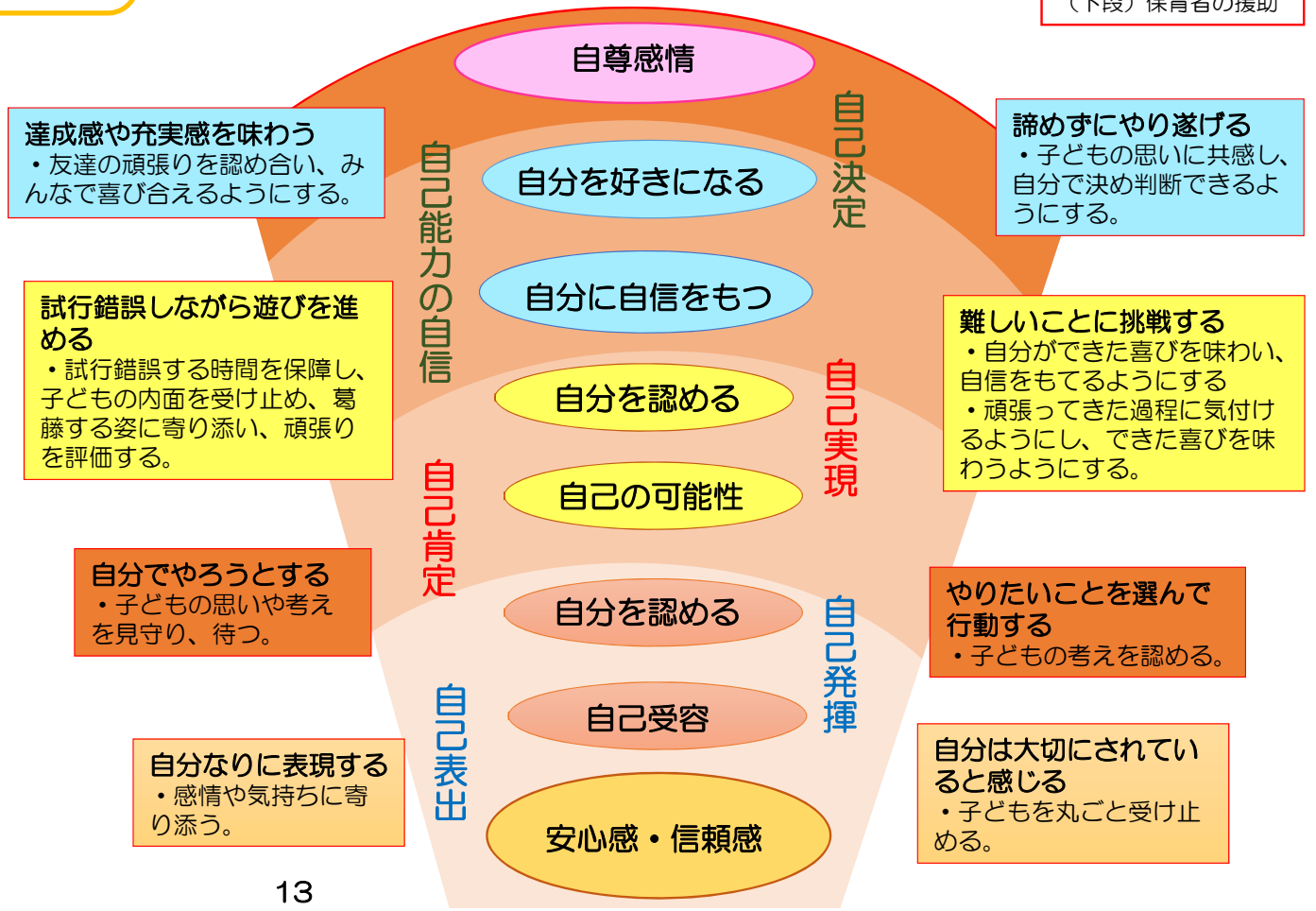
自尊感情は「自己の能力への自信」、つまり「やればできる」という自信です。

子どもが新しいことに挑戦するときや問題解決に向かおうとするときが最も重要なタイミングです。そのときに必要となるのが大人の働きかけです。

子どもは、大人からの愛情に包まれ、応答的、受容的な関わりを通し愛着を形成していきます。それを基に生活や遊びの中で、自己受容される安心感が自己実現・自己決定等へとつながっていきます。その過程における、保育者（大人）の子どもの心の育ちに応じた適切な関わりの中で、自尊感情が育まれていきます。

自　尊　感　情　の　育　ち

（上段）子どもの経験する内容
（下段）保育者の援助



支援訪問から　～自尊感情～

保育者との信頼関係が子どもの育ちを支える基盤になる。この事例で、０歳児は、保育者との触れ合いを楽しむ中で愛着関係（安心感・信頼感）が育まれていく姿、5歳児になると友達に認められる中で自尊感情が育まれていく姿を捉えている。

保育者の温かなかかわり（０歳児）

保育者の援助

保育者の顔が見えるタイミングで「ばあっ」と発声して楽しんでいる姿や気持ちに共感していく。

～触れ合い遊びから～

保育者が布で顔をかくし「いないないばあ」と顔を見せると「あ～」と言いながら体を揺らして喜ぶ。繰り返し楽しむ中で子どもたちも保育者の顔が見えるタイミングで「ばあっ」と声を発し始めた。周りの子どもたちも興味をもち、自分もやってほしいと保育者の前に来たり、布をもって友達の顔を覗き込んだりするなど、保育者の真似をする姿が見られた。

興味があるものが見えたり隠れたりする楽しさを伝え、次の展開に期待をもてるようにする。

一人一人のリズムに合わせてゆったりと関わっていくようにする。

子どもが安心して同じ遊びを繰り返し楽しみ「もっとやってほしい」という気持ちがもてるように楽しさを共有していく。

【まとめ】

乳児は安心できる保育者との触れ合いを十分に楽しむ中で、人と触れ合うことの心地よさを感じていく。保育者が表情豊かにゆったりと丁寧に関わっていくことで自分は「愛されている」と感じ、**安心感**をもって意欲的に取り組めるようになり**自己表出**につながっていく。

友達の中で認められて（5歳児）

～ボールつきに挑戦～

５歳児クラスでは、一人一人が目当てをもって『ボールつき』に挑戦していた。
M児は「つけるようになりたい」と取り組むが、ボールをつくタイミングがつかめず、毎日友達と一緒に諦めずに練習を続けてきた。

やっとコツをつかみ、連続してつけるようになった。その様子を見ていた周りの友達が「大成功やな！」と声をかけ拍手をした。M児は嬉しくて保育者の所に行き「せんせい、つけたよ！みててな！」と何度もついて見せた。保育者は「がんばったなあ。いっぱい練習したもんな。」と共に喜んだ。

遊びの振り返りのとき、T児が「Mちゃんいっぱいボールをついていた。すごいと思った」とみんなの前で発表した。保育者も「先生も見てたよ。Tちゃんにすごいって言ってもらってうれしいな。みんなにつくところを見せてくれる。」と声をかけた。M児は、はにかみながらうれしそうな表情をし、みんなの前でボールつきを披露した。

保育者の援助

・「つけるようになりたい」という子どもの思いを受け止め、励ましたり見守ったりする。

・試行錯誤の時間を保障し、子どもの葛藤を受け止め評価する。
・結果だけでなく頑張ってきた過程を認め、できた喜びが味わえるようにする。

・子どもの思いに共感し、自分で決め判断できるようにする。
・友達の言葉に保育者も共感しながら、周りの人から褒められる経験ができるようにする。

自尊感情の育ち　子どもの経験

自己受容
自分を認める
・自分でやろうとする

自分を認める
・難しいことに挑戦する
自己の可能性
・試行錯誤しながら、遊びを進める

自分に自信をもつ
・諦めずにやり遂げる
自分を好きになる
・達成感や充実感を味わう

【まとめ】

５歳児の発達段階において、保育者は子どもが主体的に活動する姿を尊重し、見守り、待つことが大切である。また、集団の中で、友達の頑張りを認め合える心情や態度を育む保育者の援助が、達成感や充実感を味わうことにつながり、自尊感情が育まれる。